

- 米朝関係・日朝関係はどう動く?? -

「朝鮮半島情勢を読む」講演会

2018年、朝鮮半島情勢は大きく変容しました。

3回の南北首脳会談が開かれ、4月の「板門店宣言」、9月の「平壤共同宣言」で「軍事的な敵対関係を終息させ、・・・さまざまな分野で交流と協力を推進していく」、「朝鮮半島を核兵器と核の脅威のない平和の地帯にしていく」と合意しました。

米朝関係も2018年6月、トランプ大統領と金正恩委員長の歴史的な首脳会談が開かれ「米朝共同声明」が発表され、「米は朝鮮の安全を保証し、朝鮮は朝鮮半島の完全な非核化の意思を再確認し」と合意されました。

しかし、現在、南北関係も米朝関係もこの合意内容が具体化せず膠着状態にあります。開城工業団地の再開や金剛山観光について韓国政府が足踏みしています。また、トランプ政権も朝鮮に核放棄を迫るのみで、制裁措置の緩和や朝鮮戦争を法的に終結させることを拒んでいます。朝鮮半島情勢が逆戻りする可能性があります。

今こそ日朝対話の再開を!!

この歴史的な朝鮮半島の大転換のもと、日本政府は「朝鮮民主主義人民共和国」（朝鮮）と対話を再開し、「日朝平壤宣言」（2002年）と「日朝政府間合意」（2014年）に基づき政府間対話を始めるべきです。日朝間で話し合いをしなければ「拉致問題」も解決できません。

そのためにも、まず朝鮮への日本独自の制裁措置を解除し、朝鮮高校への就学支援金支給（無償化適用）、朝鮮学校幼稚園部への保育料の無償化をはからなければなりません。



【講師】

いそぎあつひと

儀崎 敦仁

（慶應義塾大学准教授）

1975年生まれ。専門は北朝鮮政治。ソウル大学大学院留学を経て、在中国日本大使館専門調査員、外務省専門分析員、米ジョージワシントン大学客員研究員など歴任。著書『北朝鮮と観光』（毎日新聞出版）、共著『新版北朝鮮入門』（東洋経済新報社）など。

2020年10月24日（土）14時～

◆ 会場：国際センタービル「東天紅」会議室 (26F)

※「JR 名古屋駅」より東へ、地下街経由で約10分。

※名古屋市中村区那古野一丁目 47-1 *TEL 052-562-1015

【注】エレベーターは25Fまで、エスカレーターにて26Fへ。

◆ 参加費：1,000円

主催 「日朝教育・文化交流をすすめる愛知の会」

（連絡先 竹内宏一 090-8866-4015）